

平成30年度 第2回 学校運営協議会 議事録

日時：平成30年9月29日（土）14時00分～15時00分

場所：神奈川県立津久井高等学校3階看護実習室

議事（司会：定時制教頭）

1 校長挨拶

- ・明日の文化祭は台風が近付いているため終了時刻を繰り上げる。
- ・本日は運営協議会終了後、部会を実施する。
- ・10月に第II期県立高校改革の一部が発表される見通し。本校は近年、募集定員を埋めることができていない現状。相模原市の中学生は今後減少していく。歴史と伝統のある本校を存続させられるのかという課題が差し迫っている。

2 教育活動（授業等）視察・施設見学について（副校長）

全日制、定時制「学校へ行こう週間」の周知及び説明。資料11月18日（土）→17日（土）に訂正。

3 学校評価中間報告（全日制教頭、定時制教頭）

（全日制）

- ・中間試験を廃止し、各科目での単元テストを実施。
- ・他校の例を参考に授業のユニバーサルデザイン化を図っている。
- ・今年度は部活動が活発である。
- ・教育相談室にエアコンを設置。
- ・多岐にわたった進路を実現させなければならない。
- ・本校独自のベーシックテストを検討している。
- ・PTA活動が盛ん。
- ・フェイスブックを活用した情報発信が活発。
- ・普通科の生徒にもボランティアを普及させたい。
- ・防災訓練、避難訓練は今夏短縮して実施。今後考えていきたい。

（定時制）

- ・コミュニケーション力の向上を柱にすべての取組を行っている。
- ・全教科で前半を学びなおし、後半を通常授業とするユニバーサルデザイン化に取り組んでいる。
- ・育てる教育相談のためのケース会議は動き出したところ。
- ・夏季休業中に企画した進学、就職準備講座は希望者が出ず実施できなかった。生徒が参加しやすい形の工夫が必要。
- ・ボランティアやインターンシップについても参加者を増やす工夫が必要。

〈質疑応答〉 □：委員 ■：学校

□教室環境のユニバーサルデザイン化とは何か？（菊地原委員）

■今年の1年生は、教室の黒板には掲示物を貼らず、視覚的な情報をシンプルにする取組を全クラスで統一するなどの工夫をしている。（全日制教頭）

■どの授業でも同じことをやれば生徒が見通しを立てられる。定時制が行っている前半は学び直し、後半は通常授業とする取組も1つのユニバーサルデザイン化。（塚田委員）

■鮮やかすぎる場所は集中力に影響する。以前は色とりどりの掲示物を教室に貼っていたが、串川小学校が長年研究している。両面書けるホワイトボードに「今日のねらい」を書き、生徒と教員が見通しを立てられる。（清水委員）

■教室は担任の色が出てしまう。津久井養護学校のアドバイスを受け、学習への意欲を一定方向にするためには、どの教室も同じにして、教室環境の整備を始めた。（校長）

□先日、津久井高校の吹奏楽部に演奏をしてもらい、生徒にも好評だった。ボランティア活動があまり盛んではないとあるが、いろんな形で参加しているのでは。（塚田委員）

■吹奏楽部も生徒会も福祉科の生徒が多い。引っ張りだこ状態になってしまい、一部の生徒しかボランティア活動をやっていない現状は否めない。（林）

■津久井中央小より、小学生にかけっこの指導をしてもらいたいとの要請があり、陸上部顧問と部員が活動している。（校長）

□演劇部のボランティアを以前見たことがあるが、今はやっていないのか？（佐藤委員）

■その年によって部員数なども変わってくるため、活動内容も一定ではない。（副校長）

4 津久井高校基本データについて（副校長）

- ・福祉科とのつながりがあるため、福祉施設へのボランティアが多い。
- ・定時制では畑で採れた作物を近隣施設に届けたりしている。
- ・定時制では9月に津久井中央小学校1年生を招き、畑の落花生を収穫した。
- ・雨天の日はバスに乗れずに遅刻する生徒も多い。

5 部会について（定時制教頭）

平成31年度以降の取組について説明。

6 その他（熊坂校長）

文部科学省による地域との協働による高等学校教育改革推進事業について（Society5.0は、情報技術が融合した新たな世界を指す。）

以上